

新・こどもと健康

No.48 2021.1.4

あけましておめでとうございます。

新型コロナワクチンの接種構想

基礎疾患の範囲の〈案〉

- 以下の病気や状態の方、通院/入院している方
 - 慢性の呼吸器の病気
 - 慢性の心臓病(高血圧を含む。)
 - 慢性の腎臓病
 - 慢性の肝臓病(ただし、脂肪肝や慢性肝炎を除く。)
 - インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病又は他の病気を併発している糖尿病
 - 血液の病気(ただし、鉄欠乏性貧血を除く。)
 - 免疫の機能が低下する病気(治療中の悪性腫瘍を含む。)
 - ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
 - 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
 - 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態(呼吸障害等)
 - 染色体異常
 - 重症心身障害(重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態)
 - 睡眠時無呼吸症候群
- 基準(BMI 30以上)を満たす肥満の方

*BMI 30の目安:身長170cmで体重約87kg、身長160cmで体重約77kg

新型コロナウイルスワクチンについて各学会に意見が求められて、左記のような日程と優先順位の構想が出ています。3月中に高齢者を対象にクーポン券が発送されそうです。

1	医療従事者向け 先行接種 約1万人	2021年2月下旬 ~3月上旬
2	医療従事者(コロナ患者の診療・搬送に関わる医師・看護師・救急隊員・保健所職員)など 約400万人	同3月中
3	65歳以上の高齢者 約3600万人	同3月下旬 ~4月上旬
4	基礎疾患のある人 約820万人	同4月以降
	高齢者施設の職員ら 約200万人 (ワクチンの供給量が十分なら) 60~64歳の人 約750万人	

出典: JULI.COM HP『65歳以上に優先接種 心臓病や肥満、対象疾患—コロナワクチン-厚労省 2020年12月25日』、第43回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会HP『新型コロナワクチンの接種順位等について 資料1-1 2020(令和2)年12月25日』

コロナウイルスワクチンに関する状況(海外開発)〈主なもの〉

	海外の状況	生産・供給見通し	日本国内の状況	
A	ファイザー社(米) ※mRNAワクチン	2020年7月から米などで第Ⅲ相試験(4.4万人規模)を実施中。2020年12月に英米などで緊急使用許可の下、接種開始。	2020年中に最大5,000万回分、2021年末までに最大13億回分のワクチン生産を見込む。	ワクチン開発に成功した場合、日本に2021年6月末までに1.2億回分を供給する基本合意。国内治験を2020年10月から実施中。国内で承認申請(2020年12月18日)。
B	アストラゼネカ社 オックスフォード大(英) ※ウイルスベクターワクチン	2020年5月から英で第Ⅱ/Ⅲ相試験を実施中。2020年6月からブラジルで第Ⅲ相試験(1万人規模)を実施中。2020年8月から米で第Ⅲ相試験(4万人規模)を実施中。	全世界に20億人分を計画、米に3億人分、英に1億人分、欧州に4億人分、新興国に10億人分を供給予定としている。	ワクチン開発に成功した場合、日本に1.2億回分、うち3,000万回分は2021年3月までに供給する基本合意。国内治験を2020年8月下旬から実施中。
C	モデルナ社(米) ※mRNAワクチン	2020年7月から米で第Ⅲ相試験(3万人規模)を実施中。米で緊急使用許可(2020年12月18日)後、接種開始。	全世界に5~10億回分/年の供給を計画。2020年12月中に米国内に2,000万回分の供給を計画。	武田薬品工業(株)による国内での流通のもと2021年上半年に4,000万回分、2021年第3四半期に1,000万回分の供給を受けることについて契約を締結。国内治験実施の準備中。
D	ジョンソン&ジョンソン社 (ヤンセン社)(米) ※ウイルスベクターワクチン	2020年9月から米などで第Ⅲ相試験(6万人規模)を実施中。2020年11月から英などで第Ⅲ相試験(3万人規模)を実施中。	2021年から大量供給(順次、世界で年10億人規模)を目指す。	国内治験を2020年9月から実施中。
E	サノフィ社(仏) ※組換えタンパクワクチン ※mRNAワクチン	組換えタンパクワクチンでは、2020年9月から米で第Ⅰ/Ⅱ相試験を実施中。2021年2月に第Ⅱb相試験開始を目指す。mRNAワクチンでは、2021年第1四半期に第Ⅰ/Ⅱ相試験開始を目指す。	組換えタンパクワクチンに関して、上手くいけば2021年第4四半期に実用化の見込み、と発表。(アジュバントAS03はGSKが供給。)	
F	ノババックス社(米) ※組換えタンパクワクチン	2020年9月から英で第Ⅲ相試験(1.5万人規模)を実施中。	2020年遅くに1億回分/年の生産が目標。	武田薬品工業(株)が原薬から製造し販売予定で、1年間で2.5億回分を超える生産能力を構築すると発表。国内治験実施の準備中。

コロナウイルスワクチン開発の進捗状況(国内開発)〈主なもの〉

	基本情報	取り組み状況	目標 (時期は開発者からの聞き取り)	生産体制の見通し
①	塩野義製薬 感染研/UMNファーマ ※組換えタンパクワクチン	ウイルスのタンパク質(抗原)を遺伝子組換え技術で作成し人に投与。	第Ⅰ/Ⅱ相試験を開始(2020年12月)。	2021年末までに3,000万人分の生産体制構築を目標。生産体制等緊急整備事業で223億円を補助。
②	第一三共 東大医科研 ※mRNAワクチン	ウイルスのmRNAを人に投与。人体の中でウイルスのタンパク質(抗原)が合成される。	動物を用いた試験で、新型コロナウイルスに対する抗体価の上昇を確認。	最短で2021年3月から臨床試験開始の意向。生産体制等緊急整備事業で60.3億円を補助。
③	アンジェス 阪大/タカラバイオ ※DNAワクチン	ウイルスのDNAを人に投与。人体の中で、DNAからmRNAを介して、ウイルスのタンパク質(抗原)が合成される。	第Ⅰ/Ⅱ相試験を開始(大阪市立大、大阪大)。第Ⅱ/Ⅲ相試験を開始(東京・大阪の8施設)。	タカラバイオ・AGC・カネカ等が生産予定。生産体制等緊急整備事業で93.8億円を補助。
④	KMバイオロジクス 東大医科研/感染研/基盤研 ※不活化ワクチン	不活化したウイルスを人に投与(従来型のワクチン)。	動物を用いた試験で、新型コロナウイルスに対する抗体価の上昇を確認。	最短で2021年1月から臨床試験開始の意向。生産体制等緊急整備事業で60.9億円を補助。
⑤	IDファーマ 感染研 ※ウイルスベクターワクチン	コロナウイルスの遺伝情報をセンダイウイルスに載せて、経鼻又は注射で投与。人体の中でウイルスのタンパク質(抗原)が合成される。	動物を用いた有効性評価を実施中。	最短で2021年3月から臨床試験開始の意向。

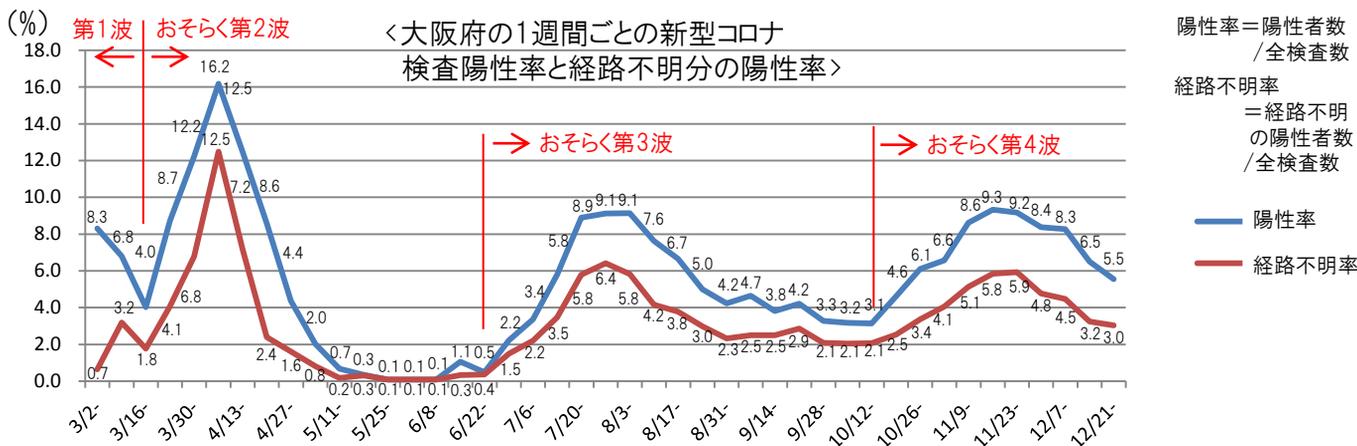
出典: 厚生労働省HP『新型コロナウイルス感染症のワクチンについて』

インフルエンザは流行していません

10月5日以降、全国で1週間に17~63人報告があるだけで、10月5日から12月13日までの総数でも360人と極めて少ない状況が続いています。大阪府でもインフルエンザの報告は10月5日以降、1週間当たり1~13人で、昨年と同週と比べて94.2~99.9%減です。

出典: 国立感染症センターHP『報告数・定点当り報告数、疾病・週・都道府県、性別 インフルエンザ』、大阪府感染症情報センターHP『感染症発生動向調査週報 第41週~第50週』

大阪府の新型コロナウイルス感染症陽性率、改善中

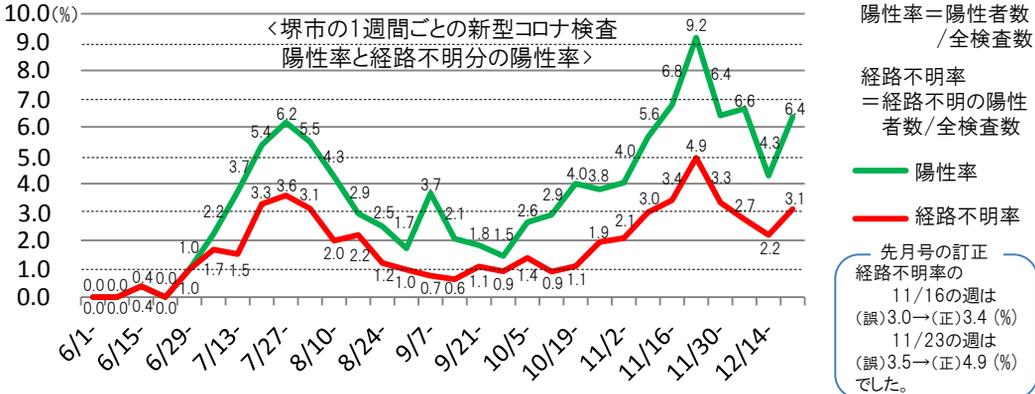


大阪府の新型コロナ検査陽性率はこのグラフの第4波で陽性率が9.3%まで悪化していましたが、11月下旬頃から陽性率・経路不明率ともに改善傾向です。

出典：大阪府HP『大阪府の最新感染動向 最終更新 2020/12/27』

堺市の新型コロナウイルス感染症陽性率は一旦改善

堺市の6月1日以降の週ごとの新型コロナ検査陽性率です。11月23日からの週が過去最悪でしたが、その後12月14日の週までは一旦改善、12月21日の週でまた悪化しています。



先月号の訂正
経路不明率の
11/16の週は
(誤)3.0→(正)3.4 (%)
11/23の週は
(誤)3.5→(正)4.9 (%)
でした。

子宮頸がんワクチンのガーダシル®が日本でも男性に適応拡大へ

世界のHPVワクチンの男子接種の国や地域、公国と開始年(2020年12月現在)			
承認あり:102の国と地域		公費助成あり:35か国と4つの領域、1つの公国(下記の国々等)	
アンチグアバール(2018)	カナダ(2017)	イスラエル(2015)	スウェーデン(2020)
アメリカ領サモア(2014)	チリ(2019)	イタリア(2019)	セントクリストファー・ネイビス(2019)
アルゼンチン(2017)	クロアチア(2016)	リーヒテンシュタイン(2016)	セントルシア(2019)
オーストラリア(2014)	チェコ共和国(2016)	ルクセンブルグ(2019)	スイス(2016)
オーストリア(2013)	デンマーク(2019)	オランダ(2021予定)	トリニダード・トバゴ(2015)
パナマ(2015)	ドミニカ国(2019)	ニュージーランド(2017)	トルクメニスタン(2016)
バルバドス(2017)	ドイツ(2019)	ニウエ(2019)	英国(2019)
ベルギー(2019)	グアム島(2011)	ノルウェー(2018)	アメリカ合衆国(2011)
バミューダ(2016)	ガイアナ(2019)	北マリアナ諸島連邦(2011)	ウルグアイ(2019)
ブラジル(2017)	アイルランド(2019)	パナマ(2016)	フランス(2021予定)

女性で定期接種となっている子宮頸がんワクチンの1つである『ガーダシル®』について、厚生労働省薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会は2020年12月4日に男性接種への適応拡大を了承しました。ヒト・パピローマウイルス

(HPV)はほぼ性感染症であり、子宮頸がんを減らすには、両性を予防することで最大の効果が得られると思われます。男性にとっても、HPVの特定の型が中咽頭がん、肛門がん、陰茎がん、尖圭コンジローマの原因になります。中咽頭がんは日本で年間約1,800人が診断され、男性が女性の5倍近くにのぼります。女性と同じく9歳以上の男性で薬事承認されるはずですが、任意接種での取り扱いになるでしょう。高額なのがネックであり、早期に自治体による補助や定期接種化が望まれます。

出典：Buzz Feed News HP『HPVワクチン、日本でも男性、肛門がんにも適応拡大へ 厚生省の審議会が適応拡大を了承 2020年12月4日』、m3.com HP『HPVワクチン「ガーダシル」、男性にも適応拡大へ 2020年12月5日』、公益社団法人 神奈川県医師会『子宮頸がんとHPVワクチンについて 〇海外情報〇』

車待機方式を継続中

風しん第5期定期接種の抗体検査・予防接種 受付中

1月・担当医の変更

なし